

## 来賓挨拶

### 京都市 副市長 小笠原 健一 氏

おはようございます。ただいまご紹介いただきました京都市副市長の小笠原でございます。まず、中には大変遠いところからの方もおられると思いますが、この寒い京都にお越しいただきまして、誠にありがとうございます。また、今回の開催にあたりまして、全国エリアマネジメントネットワーク、梅田のエリアマネジメント実践協議会、および京都大学経営管理大学院の皆様方に多大なるご尽力を賜りましたことをまずもって御礼申し上げます。

来賓という形でご挨拶をさせていただきますが、実は 2 年前経営管理大学院の方に設けられましたエリアマネジメントの勉強会に私も一メンバーとして参加させていただきました。当時は、エリアマネジメントというものが全国に津々浦々ある中で、実際どのくらいの数があるのだろうか、あるいはどんなものがあるのだろうかという正確な把握ができていないという時期でした。国土交通省の方からのアンケートがあり、小林重敬先生のご指導のもとでかなりの数のアンケートを取って実態を把握するという作業を行いながら一定の類型化を図りました。一定の政策的なインプリケーションを図ることができ、それから昨年7月のネットワークの立ち上げ、そして昨日のシンポジウムということで大変エリアマネジメントの学問の深み、そしてエリアマネジメントに対する期待感が高まっているということを感じております。昨日も、断らざるを得ないくらいたくさんの人に来ていただいたというのは、エリアマネジメントに対する期待の大きさの証左だという風に思っております。

昨日の烏丸通まちづくり協議会の細尾幹事、あるいは長谷会長の方からもお話がありましたが、京都はエリアマネジメントを昔から町衆の仕事としてやって来たエリアでございます。後ほど谷口さんから姉小路の取り組みもお話いただけることだと思いますが、昔から行政がやるものではなく町衆がまちを作っていくという DNA がしっかり根付いているエリアでございます。京都は全国になかなかないような高さ規制、屋外広告物条例でネオンサインを外す、袖看板を取るといったやや荒っぽいような行政のまちづくり施策を行わせていただいておりますが、町衆の方々のご理解のもとでエリアマネジメントの延長線上になされていると理解をしております。

しかしながら、京都のまちも悩んでおります。京都の町家がどんどん潰れ、放置されている木造密集市街地がたくさん存在し、インバウンドで外国人の方が大勢訪れた時のまちづくりがこれで本当に良いのかという悩みも抱えています。

こうした中で、本日、全国から集まった方々に色々お話をいただくというのは、私にとっても良い勉強の機会であると思っております。エリアマネジメントは全国津々浦々、歴史も違えば環境も違い、人が置かれている状況も違いますが、そのような多様な皆さんが一堂に会してお話をし、何かの気付きを得る。自分たちがやることなのか行政にやってもらうこと

なのか、あるいは国を動かしていくことなのか。そうした気付きの場所であることが、この全国エリアマネジメントネットワークの存在意義なのではないかと思っておりますし、昨日のシンポジウムでは十分にその役割を果たしたのではないかと思っております。本日もこの会が皆様方の気付きになるような会となることを願ってやみません。

末尾になりますが、全国エリアマネジメントネットワークのますますの御繁栄と、ここにいらっしゃる皆様方のますますのご活躍を祈念しながら、開会にあたりましての私のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。